



愛南町社協に社会福祉体験の実習生が来たよ♪

サロンって？からはじまる学び

サロンを知り 地域を知る



たくさんの笑顔に会えました♡
知らなかったこと
知りたかったこと
たくさんのお話してくれました☆

9月に入り、鈴虫の鳴き声が大きくなり秋の気配をかんじるようになりました。
愛南町社協には、菊川出身の大学生が地域福祉を学ぶ実習生として帰ってきました。
実習生は、小学生の時に地元のサロンとの交流を体験しており、「今でも楽しい記憶に残っているから地域福祉の中でも特にサロンについて知りたい」と当時のことを楽しそうに話してくれました。今年度は、コロナ禍の影響もあり、実際にサロンを開催している所への訪問は叶いませんでしたが、少しでもサロンのことが知りたい、とサロン連絡会役員のもとへ訪問し、活動に対しての思いなどを教えて頂きました。
お話を聞き「サロンへ行くために身だしなみを整え、会話をして笑顔になる。そして来月また参加するために健康でいようと正の連鎖が出来る。サロンは健康維持や地域のつながりを深める役割がある」と学び「話しを聞く中で土地勘や伝統を知っておくことが大切」と自分にない価値観を広げる経験を得たと、実習を振り返りました。
私たち社協職員も実習生から刺激を受けて新しい発想が生まれたり、今までの活動を伝えることで再度、福祉について考えを深めることができました。



愛南町社協の声 野平 真一郎 活動の卵

新型コロナウイルスが流行して約1年半となりました。全国的に収束に向けていたかなと思っていたら、お盆を境に感染拡大してきました。

新型コロナワクチンの接種も進んできていますが、終わりは見えない状況です。感染対策としてマスクの着用は当たり前になってきましたが、マスクのいらない普通の生活が懐かしく思ってきました。また、夏祭りや地域のイベントが、ほとんど中止になり、普段の生活に季節感がなくなってきました。「皆さんはどうでしょうか？」自粛生活は続きますが、コロナに負けないよう感染対策をしっかり行い、今後も頑張りたいと思います。

サロン 訪問記

長崎サロン

リフレッシュ！



大きな声で楽しく朗読してます♪

御荘長崎「長崎サロン」へ訪問してきました。長崎サロンは会員数18名と多く、全員が女性であることもあり、とても華やかな雰囲気サロンです。ある会員さんは「このサロンは賑やかでしょ？家ではご近所さんもいるし、大声を出すことは難しいけど、サロンだったら大声だして話しても笑っても、迷惑かけない。だから、サロンで普段のストレスを発散しているのよ」と教えて下さり、なるほど！と思いました。

この日は、シルバー川柳を朗読しながらクスッと笑い、たまに大笑いして日々のストレスを発散していました。久しぶりのサロン開催で、ゴキブリ団子づくりや会員さんを講師に健康体操をしたり、会員さんから次回サロンの活動内容の提案があったり、内容がギュギュッと詰まったサロン活動となりました。

エール！サロンに届け！

9月6日～10日の5日間愛南町社協で実習をさせていただきました。コロナ禍の影響によりサロンに参加することは出来ませんでした。代表の方々にお話を伺うことが出来ました。代表の皆さんはとてもパワフルで、お話を伺うことが出来て私も嬉しかったです。コロナの影響でサロン活動に制限があると思いますが、今できることを精一杯頑張っていきたいと思います！



美作大学3年生
石川 紗妃

ほっこり、 いいこと話



サロンは一人一人を見守る地域の拠点である

サロンでは自主的に地域での見守り活動や、困りごとを抱えていそうな人の把握などが行われています。こういった地域を見る目が増え、個別の課題がでたときに、自分たちのサロンでは何ができるか？を考え、サロン活動の幅を広げたい、そのきっかけやヒントになればいいな、と思いサロンに訪問させていただいたとき、素敵なお話を聞かせてもらうことがあります。それを集めた、愛南町内での「ほっこり、いいこと話し」今月号からみなさんへご紹介していきたいと思っております！！

【第1話】「老老介護をしている旦那さんを

サロンに呼んで、みんなでランチ」



愛南町内には、ご夫婦のみで生活している方が多くいます。その方たちも年を重ねていくと、どちらかが、もしくはどちらかが、介護を必要とする生活になることもあります。一般に65歳以上の高齢者を65歳以上の高齢者が介護することを老老介護といいます。老老介護は、体力が低下していく中での介護となり、身体への負担が深刻化し、ケガのリスクも高くなります。また、介護に要する時間が増えると、他者との交流や外出機会が減り、リフレッシュが難しくなります。人に頼ることができなくなり始めると、一人で解決せねばと、ストレス増加や介護鬱、虐待へと発展することもあります。今回は、そんな老老介護をしている旦那さんとサロンのちょっとしたお話です。

サロン代表者さんが、夫婦二人暮らして奥さんの介護をしている旦那さんに「サロンでランチを作って食べているけど、もしよかったら、奥さんがデイにいらしているときにでもサロンへ来てみない？」とランチのお誘い。その一言がきっかけで、食事のときだけでも時々サロンに参加するようになりました。老老介護は、時に介護者を孤軍奮闘させ、孤立感を生み出すこともあります。人と会って、話しをする、話を聞くことで、息抜きをして、元気をもらう。介護者が地域の中で孤立しないよう、サロンが人と人をつなぎ、気持ちを休める場、人に頼れる場になっている。ちょっとした一言が、夫婦の生活を支えることが出来たお話です。



サロン活動×赤い羽根共同募金 10月1日から赤い羽根共同募金運動が始まります



赤い羽根共同募金は、皆さんの小さな寄付が積み重なって、**地域福祉を推進する大きな力=財源**になります。その財源は、さまざまな地域福祉の活動や誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来る「**じぶんの町をよくするしくみ。**」づくりに使われています。

愛南町では、ふれあいサロンの活動助成や、民生委員さんが一人暮らしのお年寄りのお家に訪問して見守り活動をしたり、杖が必要な人に杖の配布を行うなど、みんなが優しい気持ちを持って支え合う活動を応援しています！



「ふくしってなに？」を学ぶ
福祉教育事業



誰もが住みやすい地域づくりへ...
小地域活性化事業

みなさんもご協力を
よろしくお願いします。



サロン日より「愛南NOKOTO」は、愛南町社会福祉協議会ホームページにも掲載しております。スマートフォンの「バーコードリーダー」で、このQRコードを読み取り接続するとご覧いただけます。